

だんだん

2006.7.23 - 9.10 大地の芸術祭 ECHIGO-TSUMARI ART TRIENNIAL 2006
越後妻有アートトリエンナーレ2006閉会式

アートでつながる！

大地の芸術祭フィナーレ。刻むリズム、打ちならす太鼓、手を打ち舞う人、はじける汗……。10代、20代といっしょに50代、60代の人たちも。互いにはほほえみ、抱き合って涙します。大地の芸術祭は、年令も性別も肩書きも国境も取り払うお祭りです。(P2・13参照)

主な内容

- [特集] アートにかける夏①… 2-13
- 100歳おめでとう! 長寿番付 …… 14-15
- 地域の風～支所からのたより～ …… 16-17
- oh! my クラス ほか …… 18-19
- まちの話題 …… 20-21
- 魚沼地域医療高度化構想への市の取り組み … 22
- 行革の重点改革プランが策定されました …… 23
- 高齢者のインフルエンザ予防接種に助成します … 24
- お知らせ・ガイド …… 25-31
- イチオシマップ —おもしろスポーツ— …… 32



天神ばやし（中里芸能協会）



思いを語る小白倉の皆さん

世界にはばたくアートの祭典閉幕！
第3回大地の芸術祭
越後妻有アートトリエンナーレ2006

閉会式

積み重ねた
財産を生かして
次のステージへ！

9月10日(日)夜、清津川フレッシュパーク（芋川）で行われた「第3回大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ2006閉会式」には、作家や地域住民、こへび隊などのサポーターら約1,000人が参加。50日間に渡る催しの名残りを惜しみました。

冒頭あいさつに立った大地の芸術祭実行委員長の田口直人十日町市長は、「3回の積み重ねで作品も人のつながりも格段に大きくなり、地域の財産になりました。しかも、世界に一つだけの花とも言うべき価値あるものです。この財産を生かし、第4

大地の芸術祭のおさらい

大地の芸術祭は、中山間地域の活性化を目指して新潟県と十日町市、川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町の広域6市町村（当時）が連携して策定した「越後妻有アートネットワーク整備構想」の中核事業として、2000年に第1回が開催されました。以来3年に1回実施されて今日に至っています。

十日町市と津南町に渡る約760kmという東京23区より広い大地に、現代美術のアーティストと地域住民が協力して、里山の美しさや地球規模の課題などをテーマに作品を制作・公開しています。

当初は、アートの是非をめぐる議論やPR不足などもあって深く浸透しませんでした。回を追うごとに賛同者・参加者が増え、今回は、世界40か国・200組のアーティストが参加。鑑賞者も約35万人を数えるなど、国際的アートイベントに成長しました。

当初から、「こへび隊」という主に首都圏の若者などで構成されるサポーター（ボランティア）が運営を支え、最近では、資金面で芸術祭を支える「おおへび隊」も編成されるなど、地域外の人たちの支援・相互の交流もこの催しの特徴となっています。

継続を求める声が多い中、10年間の県の財政支援期間が終了し、作品の維持管理や第4回の開催をどうするのかなど、課題も残されています。

回開催に向けて真剣に取り組んできた」と力強く述べました。
同名実行委員長の泉田裕彦新潟県知事は、「大地の芸術祭は、アーティストと地域の人たちが協力して作品を作り上げる姿に地域発展の可能性を感じます。県としても、地域と十分相談して協力していきたい」と、神保和男県出納長を通じてメッセージを寄せました。
来賓代表衆議院議員の田中真紀子さんと協賛者代表㈱ベネッセコーポレーション代表取締役会長の福武総一郎さんのあいさつ、北川フラム総合ディレクターの総括に続いて、同副実行委員長の小林三喜男津南町長の音頭で乾杯！

続いて芸術祭に深く関わった地域の代表が感想を述べました。それぞれ、「90人のムラに1万何千人という歴史始まって以来の人が来てくれました。次回も頑張ります」（江口通博さん・小白倉）、「ボランティアガイドとして60組・356人を案内しました。暑い汗も冷たい汗もかきました（笑）」（柳ハルエさん・松代）など貴重な体験談を披露、盛んな拍手を浴びました。
フィナーレには芸術祭の縁の下で力持ち・こへび隊が演出。芸術祭にかける熱い思いをラップのリズムに合わせてアピールし、太鼓や歌の大会奏（唱）で2006年の夏を締めくくりました（表紙）。

特集 アートに かける夏!! ①

第3回大地の芸術祭閉幕 次なるステージへ！



「おばちゃん、ありがとう。おれ絶対また来るよ」「きつとだぜ、待ってるよ」…。50日間、準備も含めると1年以上ともに汗を流してきた仲間としての約束は、3年後に果たされます。

「第3回越後妻有大地の芸術祭・アートトリエンナーレ2006」が閉幕しました。7月23日(日)から9月10日(日)まで、50日間にわたって催された世界最大級の現代アートの祭典は、過去最高の約35万人の入場人数を記録。作家やこへび隊などのサポーターと、地域の人たちの協働・つながりは一層深まりました。
アートとともに駆け抜けた「地域・人・大地」の50日間を振り返ります。

燃える 50日間

女しよの心意気で切り盛り 空き家再生プロジェクト—うぶすなの家

50日間に渡った大地の芸術祭。準備期間も含めて、家族や集落、地区や地域単位で全力投球・完全燃焼した人たちがたくさんいます。いくつかの事例を見てみます。

おこげも芸術的

「いらつしゃいませー」「おこげなじだい？かまどの鉄がまだ炊いたまんだよ、香ばしくつてうんめつけ」「かまどは焼きものなんだて」「何焼きか？何だつけか？そうそうオリベ、織部焼きだつて」…。ごはん炊き担当の小嶋カウさん(平・65歳)の気さくな声かけに、自然にほおがほころびます。

民家の空き家が、農家レストランと陶芸美術館の機能を併せ持つ館に生まれ変わった「うぶすなの家・願



毎日7升のごはんを炊いた小嶋さん(左)

入陶芸村」(願入)。今回の大地の芸術祭のテーマ「家と土と植物」を象徴する施設には連日大勢の鑑賞者が訪れ、多い日には1、400人を超える人出がありました。

地震でつながった心

レストランを運営するのは、下条地区のうち7集落からなる東下組地区の女性たちで組織する「東下組女しよの会(水落静子代表/会員62人)」。プロデューサーや作家と協力し合って、コンセプトの立ち上げからメニュー作り、厨房の切り盛りまでみんなでこなしました。

「冬の間に話し合いをして、春みんなで山菜を採って、加工して、試食して、それでできたのが山菜餃子と山菜ハンバーグなんです。おかげで、土曜も日曜もお盆も祭りもありません」と、代表の水落さん(願入・47歳)はくつなく笑います。そのかいあつての大盛況ですが、ここまで一朝一夕にできることではありません。「小学校をよりどころに、幼稚園児からお年寄りまで仲良しなんです。おとしの中越地震でそれが一層強くなりました。地震で物は失ったけど、気持ちはつながったんですね」。結束の固い理由をそう説明しながら、水落さんは配膳を続けました。



「東下組女しよの会」の皆さん 左から3人目が代表の水落静子さん



期間中22,000人以上が訪れたうぶすなの家

色絵陶版製のじろ(いろり)ばた



地区をあげて「おもてなし」

下条地区がインフォメーションセンター設営

来訪者に下条をよく知ってもらおうと、下条地区振興会(生越誠一会長)が芸術祭の会期中、下条地区利雪親雪総合センター「みよしの湯」にインフォメーションセンターを設営し、延べ約3、000人の来場者でにぎわいました。生越会長は、「下条の歴史や、第1回、第2回の芸術祭の取り組みを知ってもらいながら、深く作品鑑賞をしてほしかったので、写真展も開催しました」と芸術祭への地区の思い入れを語ります。

ほかに、下条商工会の呼び掛けで、約1、000枚の黄色い小旗を各戸の玄関先に掲示して訪れた人を歓迎するなど、地区をあげた取り組みは好評を博しました。



「大地のグルグル」で 集落の和？環？輪？

桑原弘隆さん(東田尻・77歳/左)



最初は、誠友会(青年会)が引き受けねと思って、「向かってきた仕事は請けねければなじょ!」とした激励した。わらで作る作品の構想を聞いた時点で手間がかかるのはわかってた。作家の芝裕子さんはそのあたりをわかっていなかったがね。

だんだん誠友会は毎日の仕事で作業に出らんなくなって、老人会が中心になって手伝うことになった。責任ある立場じゃねども、自分が発言したこともあり、芝さんとほとんど一緒にやってきた。芝さんは農業もわらの扱いも知らない人だども、強い信念を持っていたね。何度もケンカしたよ。だからこそいいもののができたと思うよ。

ムラのコミュニケーションがとれたよ。考えが違ってもやっていくうちに不思議とまとまっていく。みんなが心配してくれるし、手伝ってくれる。最近なくなったそういう大切なものが、まだあるんだと分かってうれしかったなあ。

「大地のグルグル」で、集落の和(環？輪？)ができたね。手間のかかることだけでも、やればできるんだとムラの自信になったなあ。やって良かったよ。



世界と作品を 食べちゃおう

川西芸術祭ありがとう祭り



これから食べます。100人前のパエリア!

川西地域で作品展開するアーティストと地域の人たちとの交流は、集落単位のほか、地域全体でも行われました。会期前と閉会後、有志の会がナカグリーンパーク(元町)で交流イベントを実施し、アーティストも含め、お互いの理解と協力関係を深めました。

9月12日(火)には、宿南泉さんの作品「囲まれている」の中で「芸術祭ありがとう祭り」が行われ、約50人が参加しました。コンセプトは「作品を胃の中に撤去しよう」で、米で世界地図を表現した塩澤徳子さんの作品「アース・ライス」で使われた米を、パエリアにして食べてしまおうというもの。主催者の渡貫文人さん(上野・40歳)は、「芸術祭のテーマ『人間は自然に内包される』にふさわしい撤去でしょ」と笑います。100人前が30分で撤去されました。

支える 50日間

今回の大地の芸術祭は、これまでに設置された約130点と合わせて329点の作品が展示されました。その多くは野外作品で、規模も大きいことから制作には多くの時間と人手を必要とします。

大地の芸術祭がトリエンナーレとして3年ごとに開催しているのも、作品の構想から設置まで相当の期間を必要とするからです。

芸術祭は、作品を手掛ける作家や設置される地域の住民はもとより、こへび隊やおおへび隊の力が一つになって、地域を代表する一大イベントになってきました。

さまざまな活動をおして、芸術祭を支えている人たちにうかがいます。

ツアーガイド

芸術祭の作品は、自然との融合をテーマにしているものが多くあります。展示場所は市街地のほか山間部にも数多くあるため、作品鑑賞のための交通の確保がこれまでの課題の一つでした。

今回の芸術祭では、鉄道や路線バ

ス、タクシー各社など交通機関の協力のもとに観光ツアーや周遊プランが組まれました。中でも、作品や地域を案内するガイド付きツアーは期間中約5,000人が利用するなど、好評を得ました。ツアーガイドには、市民やこへび隊の20人がボランティア登録し、春から研修を重ねて地域と芸術祭の魅力の発信役を担いました。



親子で芸術祭をサポート

磨きあげられた地域の宝物 樋口道子さん(高田町1・60歳/右)

道に迷ったり、作品のある場所を尋ねたりしている人をよく見かけます。地理に不案内な人たちに芸術祭を楽しんでもらうためにも、こういうツアーは大事ですね。きものやお米、温泉…この地域が自慢できるものをバスで通るときに案内しています。地震のときの様子や豪雪の話もします。今こうして復興してきた市民の力、支援してくださった皆さんの力。かけがえのないエネルギーです。この芸術祭も十日町の宝物の一つとして磨きあげられてきたと思います。もっともっと面白いことがあるんじゃないかなって、第4回目にそんな期待をしています。

「妻有めぐり」自主企画で 十日町をPRしたい

樋口愛子さん(川崎市・高田町1出身・33歳)

十日町のためにこへび隊が頑張っているんだから自分もやらなきゃ。それがツアーガイドをやろうと思ったきっかけです。もちろん初めての挑戦です。東京で働きながら休みをとって来しています。3回目の今回でようやく芸術祭の「心」が分かった気がします。やっぱり触れて、学んで自ら関心を持たないといけないですね。ガイドしていて学んだことを生かしながら、「妻有めぐり」を自分で企画できたらいいなあ。「もう一度十日町に来てみたい」なんて思ってもらえたらうれしいです。

芸術祭の楽しみ

分かち合いたい

佐藤貞一さん(東京都町田市・63歳)

よくおおへび隊ですか？って言われるんですけど、私はまだこへび隊所属です。こうやってアートに携わることで脱皮しながらおおへびになろうと思っています。

これまで十日町のことはあまり知りませんでした。でも、ガイドをする上では、地域の歴史や文化の説明は欠かせません。お客さんに芸術祭を知ってもらうには、その舞台になる地域を知ってもらわないとね。

お客さんには、今回の芸術祭のメインテーマ「空き家、土、植物」をキーワードに、何か作品作りに挑戦してもらえような、そんな演出ができればと思っています。皆さんと楽しみを分かち合いたいなんて思うから、50日間ガイドが務まったんでしょうかね。



こへび隊

第1回のときから、大地の芸術祭を支えてきたのが「こへび隊」。開催前からの下調べ、作家の案内、地域の人たちとの調整、空家の掃除、作品制作、集落行事への参加、生き物の世話、作品管理、鑑賞者の案内、グッズの制作と販売、作品撤去…あらゆる裏方をこなす文字どおりの縁の下力持ちで、主に首都圏の学生など若者が中心です。その数およそ500人。彼らのひたむきな姿に心打たれる地域の人たちも多く、自宅に招いたり自らボランティアとして加わるケースも増えています。何人かの感想を紹介します。

価値観が揺さぶられた

橋本博人さん(兵庫県・26歳)



僕がこの大地の芸術祭を知ったのは今年に入ってからのこと。

たまたま書店で気になった本を手にとったところから芸術祭とのかかわりが始まりました。その本の中で芸術祭のことが触れられていたのです。それからなんとなく気になってホームページにアクセスしてから、僕は妻有のまだ多く残る雪の中で「こへび」をしていました。

それから作品制作、会期、そして閉会式後の撤去まで妻有に滞在しました。こんなにこっちで生活することになるとは当初はまったく考えていませんでした。その間にこちらの

また来ます

安城守英さん(東京都・24歳)



小白倉いけばな美術館に毎日つめていました。山がきれいで、棚

田がきれいで、町並みがきれいで、水がおいしくて、住む人たちは元気が良くて。そんなところに7月から

どつぱりと4年間！

岩崎美和子さん(横浜市・24歳)



2003年の芸術祭に参加してから4年目。2006年の芸術祭を迎えるこ

ろには「川西のこへび」岩崎」といったイメージが、周りでそして自分の中で定着をするほど、どつぱりこの4年間活動をしてきました。今年もまた楽しい経験ができました。本当にありがとうございます。

私の妻有スタイル2006
・妻有の風景の美しさに感動(夏の山の緑色にホレボレ)
・地元の人温かさや優しさに触れたとき、うれしい温かい気持ちになる

・がんばり過ぎない余裕のあるゆとり感
今回は本当に疲れましたが、とても楽しかったです！次回は…お客さんとして来ようかな。

(女子美術大学大学院)

こういう大勢のサポートする人たちがいて、大地の芸術祭は成り立っています。次は、鑑賞者として純粹に大地の芸術祭を楽しむ人たちの声を聞いてみましょう。

楽しむ 50日間

観光バスツアー 参加者の声



垣谷文夫さん（川崎市・45歳）
江里子さん（44歳）
南風見さん（8歳）親子

文夫さん 十日町市に来てツアーバスがあるというのですねに申し込みました。南回りも北回りも乗りました。里山の自然がとても目にやさしかったです。ガイドさんのおかげで妻のいろいろな話も聞けて、楽し



「イナゴハピタンポ」(塩澤宏信)

みが倍増しました。
南風見さん 私は、イナゴの作品が面白かったです。滑り台で滑らしたし、作家さんがまだ制作中でお話もできてよかったです。作品を作る大変さがわかった気がします。次回もまた家族で来たいです。



小竹一朗さん（糸魚川市・72歳/左）
一枝さん（70歳/中央）夫妻と
ツアーガイドの早田さん

「空き家」には、過疎や高齢化という潜在的な問題が見え隠れしますが、芸術祭はその空き家を見事に生かして地域の活性化に結び付けているすばらしい取り組みだと思います。皆さんが自信を持って、地域を挙げて支援していることが、この芸術祭の要なんですね。こんなことを実感したのも、ツアーガイドさんた

鑑賞者・参加者の声



印出ちひろさん
（茨城県小美玉市・14歳/左）
立野亜沙美さん（同・13歳）

ちのおかげかな。おそらく、ただ作品を見て回っただけではそんなことは考えなかったと思います。

印出さん 世界太鼓フェスティバル（8月5日（土）・6日（日）開催）の出演者（たまり太鼓）として来ました。ここが昔、川の中だったなんて信じられない。こんな大空間の中で演奏ができてとても楽しいです。



立野さん 週2回、毎日4時間ずつ練習してきました。思いっきり太鼓がたたけてうれしいです。この田んぼも作品（農舞楽回廊）なんです。面白いです。



左から植木正人さん（鳥取市・29歳）
植木仁美さん（同・27歳）
中村彩さん（同・30歳）

正人さん 鳥取から夜通し車で走ってきました。作品を見て回ると眠気なんか吹っ飛びますね。山の中でも道がきれいなには驚きました。

仁美さん 仕事で仙台に行ったときに芸術祭のポスターを見て、「行こう！」って二人を誘いました。自然が大きくてびっくり。作品自体が気持ち良さそうです。イベントも私たちも「大正解」って感じ（笑）。

中村さん 町の人ぐるみでやっている感じがとてもいい。普通の生活とアートが同居している感じです。都会だともうはいかないですね。スパイラルワークが気に入りました。



「山中堤・スパイラルワーク」
（戸高千世子）

やったぞ！ 全作品鑑賞



立ち上がった竜神に感激



吉楽 秀さん
（上山・10歳）親子

子や孫に伝えたい
十日町の良さ



根津一二さん
（田川町2・70歳）

芸術祭には、いろんな楽しみ方があります。マップを頼りに作品をたずね歩くスタンプラリーもその一つ。作品鑑賞に必要な大地の芸術祭バスポートは、作品巡りの記録としてスタンブが押印できます。今回も多く皆さんの全作品（329）の鑑賞を達成しました。

見た作品は全部写真を撮って、アルバムに貼って夏休みの自由研究にしました。ぼくは前から國安孝昌さんの「棚守る竜神の御座」が好きでした。雪で壊れたけど、國安さんがみんなと一生懸命に作り直してくれて、また大きく竜神が立ち上がってよかったです。ぼくはうれしくていっしょに写真を撮ってもらいました。夏休みのいい思い出になりました。

新しく作られた作品は新鮮さがあって、特に興味がありました。大掛かりな作品には、その完成までの過程に携わった人の苦労を感じましたね。それが引かれた理由です。

作品はどれも純粋な自然を引き立たせていました。これは、これから子や孫に伝えていかなければならない財産です。こういう機会を生かして、本当の十日町の良さを若い人に知ってもらいたいですね。

身近に感じた芸術祭
家族の思い出



水落めぐみさん
（二子・33歳）親子

子どもがワークショップで作った作品を見に行くことと、子どもたちへの招待バスポートを有意義に使おうとしたことがきっかけです。回っているう



「こころの花ーあの頃へ」
（菊池歩）

ちにしだいに熱が入ってきて全部見ました。娘のあずさ（7歳）は「こころの花ーあの頃へ」のビーズの輝きに感動していました。それとブランコやすべり台などの遊べる作品も子どもたちを芸術祭に近づけた要因のようです。忙しい夏休みでしたが家族みんなが目標を共有できて、とても充実していました。

地域を

見直させてくれた芸術祭



村山景子さん
（土市・24歳）

週末に、私が通う下条の乗馬クラブに来ると、たくさんさんの車が願入の方へ向かうんです。何があるんだろう？と



「再構築」(行武治美)

興味がわいてきました。写真が趣味なので、いかにいいのが撮れるか、挑戦でした。当間にある鏡の家「再構築」が、自然の中に溶け込んでいるようにとても印象的だったので、回りながら作品と同じくらい自然の写真も撮りました。合併して広がった市を実感しながら地域を見直す良い機会でした。



芸術祭開催期間だけでなく、作家と地域が連携して、継続的に作品（事業）展開をするところもあります。2つの例を紹介します。



明後日新聞社社屋と日比野さんの作品群

集落行事とアートが融合

あさって 明後日新聞社文化事業部く長期企画で深まる信頼

今年で4回目の夏を迎えた「明後日新聞社文化事業部」は、アーティストの日比野克彦さんが2003年の第2回大地の芸術祭から作品を展開する活動拠点です。廃校になった旧荻平小学校をギャラリーに替え、自身の作品展示はもちろん、「明後日新聞」の発行や明後日カップサッカー大会など多彩なイベントの開催で話題を呼んでいます。

集落の年中行事と日比野さんのアート活動が結び、多くの人を呼び寄せるきっかけとなった明後日新聞



池田征弘さん
(昶平・61歳)

集落全員参加の芸術祭

集落のみんななかかわるってことが大事だの。でなきゃこの良さは分からねが。明後日新聞社の活動は集落行事になってます。60人くらいの集落ですが、イベントがあると毎回100人くらいの人口に膨れます。

開社は、地域の枠を越えたコミュニケーションを築いています。芸術祭の会期にとらわれず活動を展開するこの取り組みは、地域振興の一つのあり方として集落に新風を吹き込みました。



アサガオの種取り作業

迎える集落も全員参加が基本。もちろん、年寄り子どももです。日比野さんと集落の人たちの話し合いで始まったアサガオ栽培には、「芸術は分からねーが花だったら」というかわらうとする気持ちと、ここへ来た人を歓迎する気持ちが込められています。力仕事は男たちの仕事。アサガオを社屋（校舎）に伝わるための縄を張ったり、アサガオドームの竹枠を作ったりなんかもね。分業しながら自分たちができることをやる、そんな仕組みが集落内に自然にできたような気がするね。



日比野克彦さん
(48歳)

アートをとおして 地域の魅力発信

この地域の魅力を紹介するために、私たちアーティストは人を呼ぶきっかけを作っているだけです。それが芸術祭の使命でもあると思います。アートは人と人とのつなぎ役。私はこの地域に引かれ、その気持ちを形にしています。今までの4年間も、これからもそれは変わりません。

今年、集落の人たちと育てたアサガオの種を水戸や福岡など5つの都市に持ち込んでアート展などを展開しました。また「一昨日テレビ局広報宣伝部」を立ち上げ、webカメラを通じてここでの活動をネット配信しています。地域と地域を結びつけていくねらいもあります。今、盆踊りや小正月のさいの神行事など毎年5つの行事を、昶平集落の人たちと共催しています。もはや会期の区切りはなくなっているんです。これからも地域とともに新たな発想を築きながら、活動の輪を広げていきます。



大人も子どもも胸ときめくベリージャム作り

毎夏開くベリースプーン 36種類のベリーが広げるつながりの輪

ナカゴグリーンパーク（元町）の一角にあるベリースプーンは、36種類・約1,000本のベリーが育つ広さ4,300㎡のベリー園。園内のベリーハウスでは、ベリー茶やベリーケーキなどが楽しめるほか、「世界に一つだけのベリージャム」作りを体験することができます。

2003年の第2回大地の芸術祭の公募作品で、オーストリア在住のアーティスト to the woods（森口雅浩・美代夫妻）が企画・運営して

います。2003年はもとより、04年、05年に、第3回のプレイイベントとして開催された「10 days」でもベリーハウスをオープン。多くの人たちが集う場所になっています。今回の50日間では6,000人がベリーが見学し、約700人がベリージャム作りを体験しました。来年の夏からも本格的に運営を展開する予定で、ブラックベリーを中心にしたメニュー開発など、新たな企画も準備中です。

目指せ！有機認証ベリー園

南雲 2002年のプラン説明のときからかわっています。先進地視察から植え付け、せん定、草取り、ベリー摘みから皿洗いまで毎日何でもやりました。だって、「育てて食べられるアート」ってほかにないがね（笑）。日本で一番に無農薬有機栽培ベリーのJAS認証を取って、仲間といっしょに、5年後をめどに地域で自立運営できるようにするのが夢です。

齋藤 南雲さんに誘われて参加しました。お金では買えない楽しさ、魅力がここにはありますね。

農とベリー文化の拠点に

若い人がかかわる農業と新しい雪国の文化を、地域の人たちといっしょに作り上げるのを目指しています。そこでベリーが重要になるんです。ここで36種類がいっしょに育っています。多彩なベリー文化があるヨーロッパでもとてもまれなこと。この土地がベリーに合っているということです。特にブラックベリーはものすごく元気（笑）。健康に良いアントシアニンがブルーベリーに比べて6倍も多く含み、ジャムのほかジュースやお酒にしても楽しめます。だから毎年ウイーンから通いますよ。



森口雅浩さん（40歳／左）と森口美代さん（39歳）



草取りも楽しみます

南雲要子さん（美咲町・41歳／右）と齋藤敬子さん（上野・58歳）

ブラックベリーと

つなげる 50日間

これから どうつつなぐ 見えてきた課題と展望

大地の芸術祭総合ディレクターの北川フラムさん（59歳）にうかがいました。

越後妻有ファンが激増

— 今回の成果は？

「妻有に行くという人が増えています。『おはよう』『おばんです』など、この地域

ではあたりの前、見知らぬ人にもあいさつすることの新鮮さ、大切さに気づくからでしょう。みんな明るい顔をして帰っていきます。地域の人も、かわった人はみんな元気になっていきます。とにかく、妻有ファンが全国に飛躍的に増えたことは大きいですね。一気に花開いたという感じでしょうか。

マスコミ、出版、自治体、教育分野などへのパブリシティもうまくいったと思います。中国中央電視台など、海外メディアも多数取材に来ていました。自治体では茨城県、群馬

県、熊本県、横浜市、大阪市などが勉強にきていましたね。

アーティストのかか

わり方も変わってきています。アートで作ったものを持つてくるんじゃないかというところが分かったんですね。ここに来て、ここで学んで成長しています。特に、若い女性の作家は意欲的でいい作品を作っています。これは世の中の縮図でもあるでしょう（笑）。今、外国のアーティストに参加を呼びかけて断る人はいません。それくらい、「越後妻有」のブランド価値は高まっています。

意義を根底から考えよう

— 課題とこれからの展望は？

課題はとても多いですね。大地の芸術祭は単なるイベントではありません。農業や里山・棚田を生かした地域振興事業です。作品展開しているところが圧倒的に広い空間だということ、これはデメリットもありますが、これが来訪者の一人当たりの滞在時



たくさんの失われた窓のために
（内海昭子）

越後妻有のようなところは、日本のどこにもありません。でもここは一歩前に出ています。ピジットジャパンや日本風景街道のような国のモデル事業の候補にもなっています。こういうチャンスを生かしながら、この地域の将来と芸術祭の意義を、根底から考えていきましょう。

つなげるために

制作から管理と活用へ
鑑賞者から運営者へ

ムードと対話が大事

今回の芸術祭は、集落こぞってアーティストを受け入れ、作品制作を手伝いながら交流事業に取り組んだところが多くあります。野菜や加工食品の販売などで収益をあげたところもあります。こうして、集落全体が元気を出している姿を見て、「次は

おらムラにも作品を」と、早くも手をあげる集落が出てきています。

「うぶすなの家」や「胞衣―みしやぐち」といった、話題性の高い作品を受け入れて期間中2万人以上が訪れるほどに「大ブレイク」した願入集落。わずか5軒・人口27人の集落で受け入れるにはそれなりの覚悟と準備が必要です。集落のまとめ役を買って出た水落巻治さん（70歳）はそのあたりをこう語ります。

「一人や二人じゃ何もできねんだが、大勢の力を合わせてもらわねと。人間いろんな考えがあるから無理強いはいじめだ。

ムードが大事。芸術家とよく対話して、熱意が感じられたら大丈夫。最後にはみんなが良く協力してくれたつけて」。

地域の人がサポート役に

今回、地元鑑賞者も確実に増えました。小・中学生、高校生を無料としたこともあって、親子連れで鑑賞している姿も多く見られました。

一方で、芸術祭を支える地元スタッフの不足も課題となっています。こへび隊の多くが首都圏の若者だということ、これは前述しましたが、少数ながら、地元から参加している人もいます。そんな一人人数藤真弥子さん（沖立・29歳）にうかがいました。

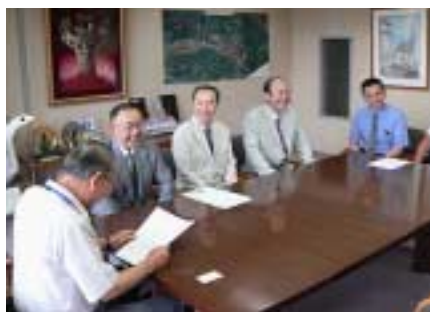


「ガイドブック作りのお手伝いをしたのがきっかけでこへび隊に入りました。活動は楽しいですよ。友達

ちも誘ったんですが、みんな『お客さん』になっちゃって（笑）。こへびの仕事は、地元の人でないと分からないことが多く大変なようです。もともと地域の人たちがかわって、そういうところをサポートできるといいですね」。

第4回開催に向け、資金、組織、人員と課題も多いようです。一番大事なのは、私たち一人ひとりが自分の事業として芸術祭をとらえ、制作から活用へ、参加者から運営者へと、気持ちのシフトチェンジをすることかもしれません。

大地の芸術祭 第4回開催を要望



十日町・津南旅館組合（林正一組合長／加盟数33）が9月6日（水）、大地の芸術祭の第4回継続開催を求める要望書を田口市長に提出しました。

要望理由は、「芸術祭の開催で地域の交流人口は増えている。自信を持って地域の魅力を語る住民を増やすためにも継続は必要」、「観光資源がやや乏しい当地に大勢の観光客が訪れるのは芸術祭しかない」などです。林会長は、「50日間という長い開催期間のイベントは貴重。経済効果も大きいと思います」と第4回開催を訴えました。田口市長は、「今回を十分検証して、次にどうつなげるか検討したい。行政主体では限界があるので、地域の皆さんの応援をお願いしたい」と述べました。



長寿番付

9月19日現在、市内の満90歳以上の高齢者は1,047人です。番付表では98歳以上の66人を紹介します。
(9月18日現在の満年齢です)

〈東〉		寿	〈西〉	
名 前	生年月日 (年齢・住所)		名 前	生年月日 (年齢・住所)
田 口 キ ヨ さん	明治36.1.7 生 [103歳・木 落]	寿	瀧 澤 テ フ さん	明治36.1.18 生 [103歳・湯 山]
根 津 政 太 郎 さん	明治36.3.19 生 [103歳・本町7丁目2]		高 橋 き よ さん	明治36.7.1 生 [103歳・川治上町第2]
高 橋 ヒ サ さん	明治37.3.4 生 [102歳・中仙田]		根 津 英 作 さん	明治37.12.21 生 [101歳・高原田]
齋 木 奥 藏 さん	明治38.2.28 生 [101歳・泉 町]		服 部 ミ サ ヲ さん	明治38.7.27 生 [101歳・上 山]
林 ナ ミ さん	明治38.9.7 生 [101歳・小泉第1]		村 山 キ ミ さん	明治38.10.7 生 [100歳・川治下町第2]
児 玉 マ ス さん	明治38.10.24 生 [100歳・高原田]		桐 生 キ ク 井 さん	明治38.11.11 生 [100歳・北新田第1]
関 谷 ミ ネ さん	明治38.11.16 生 [100歳・松 代]		尾 身 マ ス さん	明治39.1.31 生 [100歳・鉢第2]
高 橋 セ キ さん	明治39.2.9 生 [100歳・高原田]		庭 野 他 作 さん	明治39.3.21 生 [100歳・中条八幡]
菅 村 三 好 さん	明治39.4.7 生 [100歳・西寺町]		柳 ツ ギ さん	明治39.7.1 生 [100歳・千 年]
高 橋 健 治 さん	明治39.9.18 生 [100歳・旭ヶ丘]		山 賀 シ ゲ さん	明治39.9.28 生 [99歳・小荒戸]
本 山 カ ヨ さん	明治39.10.22 生 [99歳・田麦立]		山 田 マ ツ エ さん	明治39.11.5 生 [99歳・清田山]
小 林 イ ト さん	明治39.11.19 生 [99歳・西本町2丁目]		上 原 ハ ナ さん	明治39.12.10 生 [99歳・西浦町西]
山 田 シ ゲ ノ さん	明治39.12.12 生 [99歳・程 島]		小 宮 山 マ ツ さん	明治39.12.15 生 [99歳・下条中央通り]
今 井 剛 平 さん	明治39.12.19 生 [99歳・泉 町]		山 本 ト シ エ さん	明治40.1.4 生 [99歳・小 出]
若 井 ミ サ さん	明治40.1.19 生 [99歳・松 代]		上 村 ノ イ さん	明治40.1.20 生 [99歳・高原田]
夏 井 ヨ シ さん	明治40.2.9 生 [99歳・寿町2・3丁目]		野 上 い と ゑ さん	明治40.2.18 生 [99歳・高島第2]
佐 藤 五 良 治 さん	明治40.3.9 生 [99歳・天水越]		津 畑 ミ サ さん	明治40.3.31 生 [99歳・太田島第2]
久保田コンメ さん	明治40.4.5 生 [99歳・曾 根]		馬 場 ミ ツ さん	明治40.4.10 生 [99歳・小泉第1]
中 島 ム メ さん	明治40.4.16 生 [99歳・上 山]		池 田 ト メ さん	明治40.5.27 生 [99歳・下条中央通り]
金 崎 清 さん	明治40.7.15 生 [99歳・高山第2]		根 津 ツ ネ さん	明治40.7.25 生 [99歳・袋町中]
武 田 サ キ さん	明治40.8.16 生 [99歳・諏訪町]		池 田 ト メ さん	明治40.8.18 生 [99歳・轟 木]
齋 木 ス ガ さん	明治40.10.3 生 [98歳・落之水]		山 内 レ ン さん	明治40.10.6 生 [98歳・本町3丁目]
中 村 チ ヤ ノ さん	明治40.11.15 生 [98歳・岩 瀬]		大 井 カ ツ ノ さん	明治40.12.2 生 [98歳・寺 尾]
村 山 モ ト さん	明治40.12.18 生 [98歳・本町6丁目1]		仲 ケ フ さん	明治41.1.2 生 [98歳・宮下町西]
米持ハルイチ さん	明治41.1.29 生 [98歳・春日町3丁目]		池 田 フ ジ さん	明治41.2.1 生 [98歳・稲荷町1丁目]
生 越 伊 三 郎 さん	明治41.2.6 生 [98歳・下条栄町]		生 越 キ ヌ さん	明治41.2.10 生 [98歳・諏訪町]
中 島 ト シ さん	明治41.2.19 生 [98歳・本屋敷]		北 村 セ ツ さん	明治41.3.20 生 [98歳・東善寺]
桑 原 ハ ナ さん	明治41.3.28 生 [98歳・高原田]		関 口 ト ク さん	明治41.5.8 生 [98歳・高原田]
西 片 ハ ル さん	明治41.5.10 生 [98歳・太 平]		鈴 木 タ ツ さん	明治41.5.16 生 [98歳・重 地]
阿 部 ハ ル さん	明治41.5.16 生 [98歳・中条上町]		山 田 チ ヨ ノ さん	明治41.5.18 生 [98歳・宮 中]
俵 山 フ ジ ノ さん	明治41.6.7 生 [98歳・ニツ屋]		富 井 ミ ス さん	明治41.7.1 生 [98歳・市之越]
高 橋 チ イ さん	明治41.7.25 生 [98歳・本町6丁目1]		関 澤 ミ ツ さん	明治41.8.21 生 [98歳・倉 下]
湯 沢 増 太 郎 さん	明治41.8.25 生 [98歳・学校町1丁目]		今 藤 ミ セ さん	明治41.9.18 生 [98歳・上 野]

100歳おめでとう

～ 今年度市内では18人が仲間入り ～

新潟県と十日町市では、敬老の日に合わせて100歳を迎える人をお祝いしました。今年度、市内では18人が100歳の仲間入りを果たします。これで、市内の100歳以上の高齢者は34人(9月19日現在)になります。

今年度、市内では18人が100歳を迎えます。

9月15日(金)には、田口市長や県十日町地域振興局の釜田健康福祉副部長などが16人を訪問して、内閣総理大臣の祝状と銀杯、県知事の祝状と記念品、市長の祝状と祝金を手渡ししました。皆さんは元気に出迎え、感謝の言葉や100歳を迎えた感想を述べていました。

新潟県で100歳以上の人は、昨年より90人増え、683人(9月末現在)となっています。100歳の長寿を迎えた皆さんに学び、これからも多くの人が達者で100歳を迎えることができるように、頑張りましょう！

今年度100歳を迎える皆さん

- 菅村三好さん(西寺町)
- 柳 ツギさん(千年)
- 高橋健治さん(旭ヶ丘)
- 山賀シゲさん(小荒戸)
- 本山カヨさん(田麦立)
- 山田マツエさん(清田山)
- 小林イトさん(西本町2丁目)
- 上原ハナさん(西浦町西)
- 山田シゲノさん(程島)

- 小宮山マツさん(下条中央通り)
- 今井剛平さん(泉町)
- 山本トシエさん(小出)
- 若井ミサさん(松代)
- 上村ノイさん(高原田)
- 夏井ヨシさん(寿町2・3丁目)
- 野上いとゑさん(高島第2)
- 佐藤五良治さん(天水越)
- 津畑ミサさん(太田島第2)



夏井ヨシさん(寿町2・3)
周りの人たちのやさしさ、あたたかさのおかげで長生きできました。夏は草取り、冬は雪かきとじつとしていらんねやんです。長生きしていると、いろいろな見たり聞いたりして利口になれるんじゃないかと思っています。

菅村三好さん(西寺町)
毎日着物の切れこにミシンかけて、巾着やお守り作りをしています。袋の柄合わせを考えるのが楽しみなんです。まだ針に糸も通せません。



佐藤五良治さん(天水越)
新聞は毎日かかさず読んでいます。小説を読むのも楽しみのひとつです。57歳のとき大病をしましたが、その後は達者でなんでもおいしくいただいています。



木道から小松原湿原を散策

清津山の会（鈴木和雄代表）では、本年度から2か年継続で、新潟県の「ふるさとの自然再生協働事業」に取り組めます。この事業は、新潟県自然環境保全地域に指定されている「小松原湿原」の木道の整備（栈木取付など）を

小松原登山道整備 ボランティア募集

～守りたい、豊かな自然～

ながまつクラブ通信

中里支所
☎763-3111

行うものです。木道は、壊れやすい湿原の自然環境を守りながら、可れんな高山植物が咲きそろう湿原内を散策できるように設置されています。苗場山麓に広がる豊かな自然を守るこの事業に、ボランティアとして参加してみませんか？

皆さんのご協力をお願いします。

▼日時 10月14日(土)・15日(日) ともに午前7時～
▼集合場所 中里総合センター前
▼募集人員 両日とも20人
▼募集締切 10月5日(木)
▼その他 詳細は、申込者に連絡します。

申込先・問合せ
中里支所地域振興課商工観光係
TEL 763-3111
FAX 763-2044

新鮮野菜はなじょだの？ 『野菜直売市開催』

清津峡地区・貝野地区では、営農委員会が中心となり、安心・安全の地元秋野菜や新米、山菜などを次の会場で販売します。皆さんのお越しをお待ちしています。

(清津峡地区)

日時 10月28日(土) 午前9時30分～午後1時
場所 ラピーヌ雪街道前駐車場(角間)

(貝野地区)

日時 10月29日(日) 午前11時～午後3時
場所 ミオンなかさと駐車場(宮中)

【問合せ】

中里支所農林課農業振興係
☎763-2510



中里支所新庁舎

もうすぐ 新庁舎で業務開始

中越大地震の際、甚大な被害を受けた中里支所庁舎の再建工事が完了し、9月25日(月)に統合保育園と支所庁舎の合同しゅん工式が行われました。現在中里支所は、地域振興課と農林課が保健センターで業務を行っていますが、10月16日(月)からは全課が新庁舎で業務を行います。各課直通番号やFAX番号は今ままであります。

◆今後の予定
10月14日(土)・15日(日) 事務所引越し
10月16日(月) 新庁舎業務開始



鏡に映る「妻有の家」を楽しみました

9月4日(月)と6日(水)に、高齢者サークル松寿大学と松代地域の老人クラブ合同による大地の芸術祭鑑賞巡りが行われ、2日間で131人がアート作品を楽しみました。コースは、最初に願入の「うぶすなの家」や「抱衣ーみしゃぐち」、中平の「こころの花」などを鑑賞しました。次に訪れた四ツ宮公園にあるレランドロ・エリッヒの「妻有の家」では、参加者は窓からぶら下がり見えるよう



「ピュアランドの夏祭り」を鑑賞

に座り、童心に帰って鏡に映る自分の姿を楽しんでいました。ほかにも城ヶ丘ピュアランドやナカゴグリーパーク周辺、ミオン中里周辺の作品群を巡るなど、1日で市内を一周するハードスケジュールでしたが、疲れも見せずに最後まで元気に鑑賞していました。

参加者の一人は「普段行けないところに連れていってもらって大変ありがたかった」と喜んでいました。

まつだい農舞台 日本の食器 10人展

日本のやきもの界で注目されている10人の作家の作品展です。作品に直接触れてその風合いを楽しめます。好評を博した昨年の「日本のやきもの8人展」に続き、越後妻有地域の土を使った「妻有焼」の創作に向けて開催されます。

多数のやきものの販売も行います。お楽しみに！

期日 10月14日(土)～12月24日(日)

時間 午前10時～午後5時
(受付 午後4時30分まで)

定休日 月曜日

料金 大人500円、小・中学生300円
小学生未満無料(団体・障害者割引あり)

問合せ まつだい農舞台 ☎595-6180



昨年開催された日本のやきもの8人展

松代の自然

トックリバチ

残暑が厳しい『しちんち盆』の8月27日(日)、近所の人から、玄関脇の軒下に変った蜂の巣があると聞いて行ってみました。そこには貧乏徳利を逆さに吊るしたようなものが下がっていました。これはトックリバチというドロボロの蜂

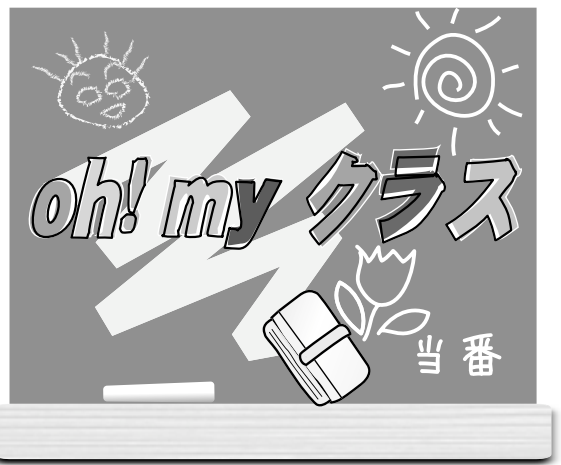


一枚貝型の巣

とっくり型の巣

が、泥を塗り固めて作った巣です。その近くにも別の形をしたドロボロの巣がありました。これは一枚貝の殻を貼り付けて作られたような形で穴が二つ開いています。これらドロボロの仲間、ほかの昆虫の幼虫やシヤクトリムシなどを狩ることで、巣の中で卵を生み付け、自分の子供のえさにします。このように、二つも種類の異なるドロボロバチが隣接して営巣することは、何か瑞兆でもあらうしいと祝福しつつ、大事に見守って欲しいと思います。その場を去りました。

(文と写真 高橋八十八)



南中学校2年3組 15

クラス目標は「仲間・友情・信頼 2-3で過ごす時間プライスレス お金で買えない想い出作り」。楽しいことうれしいこと、つらいこと悲しいこと、みんな2の3でいっしょに経験していい思い出を作っていこうという思いを込めて決めました。終学活では、毎日の授業評価をし、クラスを自分たちの手でもっとよくしていこうと、いつも前向きな2年3組です。



徳永上総さん——騒がしいけど、ノリが良くてまとまりがあります。活発で何にでもチャレンジするところがこのクラスの良いところかな。元気すぎてたまにはめをはずしてしまふところは気をつけたいです。進級したら、全校を引っ張っていきける信頼される3年生になりたいです。部活動ではテニス団体で県大会出場を目指して頑張ります。

小磯雅浩先生——元気があってやさしくて、呼びかけるとすぐに反応が返ってくる、そして笑顔が絶えないのがこのクラスのいい所。最近落ち着いてきてその場の空気も読めるようになってきました。クラスを自分たちでよくしていこうという姿勢はすばらしいです。これから先、どんなことにも常に全力で取り組むクラスになってほしいです。

光ケーブルネットワークで地域が変わる

VOL.8

◆問合せ◆
総合政策課
情報政策係
☎757-3111
(内線233)

地上デジタル(地デジ)放送を視聴するためには

■放送を視聴するためには

視聴しているアンテナ・受信機によって異なりますが、その前提としてアンテナが向いている方向の基地局(またはサテライト中継局)が地デジの放送を行っているかどうかを知る必要があります。

■テレビ(受信機)

基本的に地上デジタル対応テレビが必要になりますが、今までのアナログ放送用のテレビも、地上デジタルチューナーを買い足すことでそのまま使用できます。

市は、高速通信網整備事業の一つの柱として、ケーブルテレビ事業を考えています。ケーブルテレビとは、大きな共同受信施設を設置し、各家庭を光ケーブルでつなぎ、有線でテレビ放送を流す仕組みです。

■放送中継局
弥彦(基地局)では、10月から全放送局から放送が開始されます。十日町市近隣のの中継局(アンテナ)は、現時点で2006年から2010年の間に順次スタートする予定となっています(一部の中継局は未定のものがあります)。

■アンテナ

中継局での地デジ放送がスタートすると、中継局から直接受信している家庭では基本的にUHFアンテナで視聴ができます。しかし、共聴施設を使用して視聴する地域は、施設によって設備が異なるため、改修が必要な場合があります。費用などは、現在の保守・管理業者にお問い合わせください。

視聴地域の解消や地上デジタル放送の再送信がありますが、それだけではなく、コミュニティチャンネルで市役所や地域からのお知らせ、地域の出来事などを放送し、地域情報の共有化を図ります。市では、地域情報化を推進すること、安心・安全・便利な地域をつくることはもちろん、地域の一体感の醸成や地域交流を図り地域の再生を目指します。

※今回の内容の詳細は次回、別ページを設けてお知らせします

おいしい！昔

〈十五〉

「海老の牛池」の巻

(海老)

今からずくつと昔のこと、海老のムラに義太郎という若者がいました。孝行息子で、母親の病氣平癒を願って毎夜大日如来堂にお参りをしていました。満願の21目のこと、一心に祈る義太郎の後ろから「あのう、もし」と声がかかりました。びっくりして振り向くと、美しい娘が立っていました。

が握られていました。母親は薬を飲んですっかり元気になりました。そして、「義太郎、おらがこっけ元氣になったがも、この薬をくれた娘さんのおかげ。ちゃんと



「おらも願うことがあつて、毎日ここにお参りしていらあだも、お前様の一心に祈る姿に感心していました。この薬をお母様に飲ませてやってください。きつと良く効きます。これから用があるときは、村はずれの池のそばにある松の太木の下で手を三つつ打ってくんねかい。すぐに参ります」と言つて、娘は闇の中へ消えていきました。義太郎の手には確かに薬の包み

札を言いたいので、連れてきておくれ」と言いました。義太郎は、池のほとりの松の太木の下に来てポンポンポンと三つつ手を打ちました。するとあら不思議、いつの間にかあの娘が立っています。早速

家に連れて帰り、母親ともども丁寧に礼を述べました。お花というその娘に身寄りがないということなので、母親が「おらせがれの嫁になつてくれ」と言うとお花は顔を赤らめながらも、「あい」と返事しました。三人は仲良く暮らし、やがて孝太郎という男の子も生まれました。

桃の花が咲き乱れるある暖かい日のこと、お花は孝太郎を連れて畑仕事に出かけました。お屋を食べた後、孝太郎に乳をやりながら、春の陽気に誘われて寝入ってしまった。用事を済ませた義太郎が畑に来ると、お花の手ぬぐいをかぶった大きな赤牛が孝太郎を抱くように寝ていました。義太郎はびっくりして家に戻り母親を連れて来ましたが、孝太郎を残して牛はもういませんでした。

それから、義太郎の家では、何か足りないものがあるお池に来て頼み、願いは必ずかなえられました。ところが何代目かのとき、借りた皿を一枚返し忘れ、願いはかなえられなくなりました。



台風シーズンには火の用心のあいさつも

この夏は大地の芸術祭で大いに盛り上がりました。今は一抹の寂しさを感じている人も大勢おられるのではないのでしょうか。いよいよ収穫の秋となりましたが、台風の影響がないことを願うばかりです。

先日、防災協定市で、中越大震災のときに大変お世話になった富山県魚津市に行ってきました。大火復興記念式典などの行事に議長とともに出席し、災害時相互応援協定の再確認などのほか、防災フォーラムのパネルストとして、震災時の様子を話してきました。魚津市は、50年

前の大火により市街地の大半を消失し、被災世帯1、583世帯、被災者7、219人という歴史を持っています。以来50年間、市民一丸となって災害に強い町づくりを進め、防災意識も大変高いと感じました。

当市では、中越大震災の体験を話してほしい旨の依頼を受けることがあります。正直のところ少し困惑するところがあります。大地震を経験したことは確かですが、防災先進市として依頼されている訳ではないからです。それでも、多くの市や町から支援を受けたことに感謝の気持ちを含め、少しでも役に立てればとの思いで、当時の様子を話しています。

当市も明治33年に十日町大火があり、奇跡的な復興を遂げた歴史が今に語り継がれています。改めて豪雪にも、大火にも、地震にも強い防災都市として評価されるよう着実な歩みを続けなければならぬと思っています。

さて、台風シーズンです。台風Ⅱ大火の危険、誰でも分かることです。火災が多発しています。「火の用心」の一言もあいさつに付け加えたいものです。いかがでしょうか。



コミュニティ助成事業とは、(財)自治総合センターが自治宝くじの普及・広報を図るとともに、コミュニティ活動の健全な発展を目的として行っている事業です。宝くじによる収益金は、みこしや公園遊具のほか、文化活動設備、防災設備、緑化活動など地域コミュニティ組織を対象にしたさまざまな地域づくりに役立っています。

問合せ
総合政策課行革協働係
☎757-3111 (内線232)

なお、助成事業の申請は毎年9月下旬ころ受け付けています。助成を希望する町内・集落は、問い合わせてください。



稲荷町4



珠川



山野田



新屋敷

tokamachi topics

郷土の高僧 滝谷琢宗禅師を顕彰

市出身（旧仙田村赤谷）の高僧、滝谷琢宗禅師を顕彰する事業として、9月10日(日)、クロス10で都市青年僧侶の会（蔵品真隆会長）主催による110回忌報恩法要と講演会が行われました。永平寺63代禅師の滝谷琢宗禅師は、明治期に現在も続く教義の編集に尽力し、生家のあった赤谷には、その功績をたたえた石碑が建立されています。「ぬくもりの修行」をテーマに行われた今回の顕彰事業は、今年106歳を迎えた宮崎奕保永平寺78代禅師が法要の導師を務め、郷土の偉人を顕彰しました。会場には、その後行われた講演会と合わせて、約1,200人が集まりました。



9月10日(日)、十日町市役所駐車場場で第17回消防ひろばが開催され、多くの親子連れでにぎわいました。会場では、ヘルメットをかぶってロープ渡りを経験するちびっ子レスキュー隊のコーナーや、特殊車両で地震を体験するコーナーなどで、さまざまな催し物が行われました。中でも消防ホースで作られたコースを、ミニ消防車で回るちびっこ消防隊のコーナーは大人気。子どもたちは119と書かれたミニカーに乗り込み、大喜びでコースを回っていました。

子どもにも防災意識を



工夫がいっぱい アイディアいっぱい

9月16日(土)～18日(祝)の3日間、クロス10で「第34回十日町市・中魚沼郡児童生徒発明工夫模型展」「中魚沼郡十日町市第22回児童生徒生物標本展」が開催されました。これは市立理科教育センターが、郡市内小・中学校の児童生徒を対象に、豊かな想像力を育てること、動物や植物に対する興味・関心を育てることを目的に毎年開催しているものです。今年は、発明模型の部では1,104点、生物標本の部では290点、合計1,394点の作品が出品されました。開催初日の16日(土)は大勢の家族連れなどが訪れ、クロス10の大ホール・中ホールいっばいに並べられた作品の数々を、興味深そうに鑑賞していました。展示会には3日間で約5,000人が会場に足を運びました。



まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報広聴係（☎757-3111内線213）へ、お気軽にお寄せください。

tokamachi topics

越後縮を織る

～地域経済を支えた女性たちの力～

9月10日(日)、情報館で歴史講演会「越後縮を織る」が開催されました。講師に県立文書館・元市史編さん執筆員の杉本耕一さんを迎え、越後縮を織り出してきた女性たちが、家計や地域経済を支える上でいかに大きな貢献してきたかが語られ、約70人の参加者は熱心に耳を傾けていました。また、講演会に先立ち、「中越大震災緊急避難資料概要報告会」が行われ、2年前の中越大震災を機に情報館に寄託された越後縮問屋加賀屋文書を中心とする古文書の整理状況が、ボランティア代表である丸山克巳さんから報告がありました。



メタボリックシンデレラ？

9月9日(土)、千手中央コミュニティセンターで第5回十日町地域糖尿病予防ワークショップが行われました。今年のテーマは「メタボリックシンドロームを予防しよう」。空飛ぶ料理研究家として知られる村上祥子さんによる講演「実践。日本型食生活」や関口陽子さんによる運動の実技「筋肉があなたを救う」などのほか、かわにし夢きやらばんによるお茶の間健康劇場「寝たばりっ子シンデレラ」が上演され、約300人の参加者を笑いの渦に巻き込んでいました。



魚沼地域医療の高度化構想への市の取り組み

県から「魚沼基幹病院(仮称)設置と周辺病院再編のフレーム(枠組み)について(案)」が提案され、その目的などについて見解が示されました。市としては、次の基本的な考えで、県と十分協議を重ねながら取り組むことにしています。

- ①基幹病院の整備については賛成する。
- ②十日町病院を改築し、地域中核病院として機能強化することと運営形態を公設民営とすることに同意する。また、市として地域中核病院構想を取りまとめ県に提出する。
- ③松代病院は、今後も県の責任において、維持する必要がある。
- ④小出病院・六日町病院の取扱いについては、魚沼市、南魚沼市、湯沢町の考えを尊重する。

●県のフレーム案

(十日町病院と松代病院の部分の抜粋。()は県の説明資料から)

- ①松代病院は、十日町病院の改築に併せ、その機能等を十日町病院へ統合し、県立としては廃止する。(ただし、地元との合意がないまま一方的に進めることはないし、松代病院が医療機関としてなくなるわけではない)
- ②基幹病院も含め、①の合意が得られしだい、基幹病院整備基本構想の策定に着手し、早期開院を目指す。基幹病院整備に併せ、十日町病院を地域の中核的な病院として改築する。
- ③十日町病院は、改築時に公設民営とし、医師確保及び将来の安定的経営に配慮した運営主体とする。(なお、十日町病院は、県立施設として、医療提供に県が責任を持つので、事業縮小や経営の撤退の心配はない)
- ④医師確保等について、十日町病院は、首都圏も含めた幅広い医師確保策を検討する。また、基幹病院などから医師派遣・支援策や、地元開業医などとの連携方策を検討する。

●**県の見解** (原文のまま)
(新潟県福祉保健部・病院局発表)
基幹病院の設置・十日町病院の中核病院化により魚沼地域に安全・安心な医療を提供します！
県では、救命救急センター等を備えた基幹病院を設置し、十日町病院を地域中核病院として機能強化することを計画しております。

- 1 魚沼地域で安心して医療を受けることができるようになります。
- ①長岡地域の病院等に頼っていた救命救急や高度医療等を、身近な病院で受診できます。(基幹病院・十日町病院)
- ②新潟大学との連携や魅力ある基幹病院づくりにより、医師の十分な確保が可能となります。また、病院勤務医の負担軽減により、離職防止が図られます。
- ③基幹病院からの医師派遣(専門外来等)により、地元の病院で必要な診療科の医療を安心して受診できます。
- 2 松代地域や小出地域から、病院等がなくなるわけではありません。
- 地域に必要な医療は、県と地元自治体が十分協議し、民間病院とも連携しながら守っていきます。
- 身近なかかりつけ医等の地域の医療機関と基幹病院等がカルテを共

■問合せ 十日町病院建設推進室 ☎75713111 (内線128)

有するなど、地域全体の医療ネットワークの構築を進めていきます。

3 地域医療を担う病院の設立主体に関わらず、県は、地域の医療確保の支援に努めていきます。

●県は、県立病院がない地域であっても、地域に必要な医療の確保に努めてきましたし、今後も地元自治体と連携し、一層の充実に努めていきます。

4 住民に密着した医療が、保健・福祉サービスを含め一体的に提供されることにより、予防からリハビリテーションに至る総合的な健康づくりが推進されます。

●県と地元自治体が役割分担をして、地域医療に共同で取り組もうとするものです。

●地元自治体は、一次救急医療や健診、介護予防等の保健・福祉サービスと一体となった身近な医療を提供し、県は、拠点的(高度・広域・専門・災害時等)医療を確保します。

また、地元自治体の取組に対して、医師確保等の支援を行います。

●身近な病院を地元で運営することにより、地域に必要な診療科や運営内容を地元で決めることができます。

行革の重点改革プランが策定されました

市では行財政基盤を強化し持続可能なまちづくりを進めるため、市民自らが考え、自らがまちづくりを進める環境を整えることを柱とした「重点改革プラン」を策定しました。これは、今年4月に策定された行政創造プランを実行に移すため、行政改革推進委員会(中林英雄委員長)で審議し、行政改革に関する重点取り組み事項をまとめたものです。

本計画は、今年度から平成22年度までの5年間を計画期間とし、行政の組織改革・財政改革・市民と行政の協働のまちづくりを3つの柱にしています。

結婚促進事業

結婚したいあなた

ふれあいパーティーに参加しませんか

- ◆日時：11月19日(日)午前10時～午後3時
- ◆会場：ベルナティオフォーラムセンター
- ◆会費：男性4,000円・女性2,000円
- ◆資格：男女とも20～45歳
※男性は市内・津南町在住者
- ◆内容：バイキング式昼食会・ゲーム
- ◆締切：10月31日(火)
- ◆申込み・問合せ：総合政策課行革協働係(内線231)または支所地域振興課自治振興係

結婚相談員を紹介します

市では、結婚を促進するため結婚相談員を委嘱しています。担当地区は決まっていません。だれにでも気軽に相談してください。

氏名	連絡先	住所(地区)
庭野レイ子	025-757-5645	十日町
福嶋恭子	025-757-6372	中条
長津俊男	025-757-4862	川治
野上ヤウ	025-757-6978	吉田
藤巻洋子	025-755-2273	下条
櫻澤秀子	025-758-3278	水沢
清水美代子	025-768-3108	川西
野沢正夫	025-768-2671	川西
小林春美	025-763-2241	中里
杉谷清六	025-763-2581	中里
関キヨ子	025-598-2408	松代
小堺月子	025-597-2536	松代
相澤正平	025-596-3656	松之山
重野和子	025-596-2203	松之山



重点改革プランの詳細は、市のホームページに掲載してありますのでご覧ください。

<http://www.city.tokamachi.niigata.jp/>

男女共同参画推進事業

地域セミナー

「自分らしく生きる」

(十日町市・(財)新潟県女性財団・十日町地域振興局健康福祉部共催事業)

「女だから」「男だから」とらわれず、一人の個人として自分らしく生きることの大切さを一緒に考えてみませんか。4回シリーズのセミナーは、グループワークを中心に、気軽に意見交換をすることから始めます。

- ◆日程：(各回とも午後7時から2時間程度)
- 第1回 11月1日(水) } ロールプレー (役割演技)
- 第2回 11月8日(水) } グループワーク
- 第3回 11月22日(水)
- 講演「生涯自分らしくともに生きる」
- 講師 江口 夫佐子(元長岡健康福祉事務所次長)
- 更年期の特徴や課題を知り自分らしく生きるための健康講演会です。

- 第4回 3月中旬 グループワーク

- ◆会場：松之山自然休養村センター
※保育ルーム有
- ◆参加費：無料
- ◆募集人員：30人(原則4回参加できる人)
- ◆募集締切：10月16日(月)

申込・問合せ

総合政策課行革協働係
☎025-757-3111 (内線231)
または
松之山支所地域振興課自治振興係
☎025-596-3131

高齢者のインフルエンザ

予防接種に助成します

申し込みは
11月1日(水)までに
医療機関へ

冬はインフルエンザが流行する季節です。高齢者のインフルエンザ予防には予防接種が有効です。市では高齢者が受ける予防接種に助成を行っています。各医療機関で申込みを受け付けていますので、流行前に予防接種を受けることをおすすめします。（強制ではありません）

◆対象者

- ①接種日現在満65歳以上で、接種を希望する人
- ②接種日現在満60歳以上65歳未満で、心臓、じん臓、呼吸器

の機能に傷害（障害者手帳1級程度）がある人、または、ヒト免疫不全（HIV）ウイルスによる免疫の機能に障害がある人で接種を希望する人 ※詳しくは、健康支援課に問合せ

◆申込方法

医療機関での個別接種となります。かかりつけの医療機関に直接申込んでください。接種日などは、医療機関から説明を受けてください。

◆申込期限

11月1日(水)まで

◆接種期間

10月中旬から12月末の医療機関の診療日まで

◆対象医療機関

市内の医療機関、津南病院、石川医院、古藤医院（津南町）藤巻医院（小千谷市）

※これ以外の医療機関は、健康支援課に問合せってください

◆接種回数

申込んだ医療機関で1回

◆接種料金

接種を受けた人は、ワクチン代として1,050円を医療機関窓口でお支払いください。それ

◆意思確認

れ以外の経費は市が負担します。生活保護世帯の人は無料です。

◆その他

病気や体調などにより、予防接種を受けられない場合があります。申し込んだ医療機関で予防接種を受けてください。

◆問合せ

健康支援課母子保健係 ☎757-3111（内線122）

ふるさと探訪 平成18年度

参加者募集！ 十日町市 施設見学会

市では、市民の皆さんから広く十日町市を知ってもらうため、施設見学会を開催します。大地の芸術祭や石彫シンポジウムの作品を含め、今年新たに建設されたものや地域の主要施設などを見学します。

- 期 日 10月21日(土)（松之山・中里経由コース）
10月27日(金)（松代・川西経由コース）
- 対 象 十日町市民
- 定 員 各回先着40人
※10人に満たない場合は開催しません
- 参加費 1,900円
（当日徴収、昼食代・入館料含む）

見学施設 石彫シンポジウム作品（本町通り）、市役所分庁舎、なかよし保育園、千年の湯（昼食・入浴）、千手中央コミュニティセンター、ひだまりプール、松之山新山きのこ工場、美人林、まつだい農舞台 ※途中、各地に点在するアート作品なども見学します。

- 申込み・問合せ 10月13日(金)までに、総務課広報広聴係 ☎757-3111（内線214）

行程(予定)

※天候などにより変更になることがあります

- ▼10月21日(土)（松之山・中里経由コース）
松之山支所（午前8時30分発）→中里支所（9時00分発）→十日町駅東口（9時20分発）→石彫シンポ（本町通り徒歩）→市役所分庁舎→なかよし保育園→千年の湯（昼食）ほか→まつだい農舞台→松之山新山きのこ工場→美人林→松之山支所（午後4時着）→中里支所（4時30分着）→十日町駅東口（4時50分着）
- ▼10月27日(金)（松代・川西経由コース）
松代支所（午前8時40分発）→川西支所（9時10分発）→十日町駅東口（9時30分発）→石彫シンポ（本町通り徒歩）→市役所分庁舎→なかよし保育園→千年の湯（昼食）ほか→松之山新山きのこ工場→美人林→まつだい農舞台→川西支所（午後4時30分着）→十日町駅東口（4時50分着）



お知らせ・ガイド
市役所 TEL 757-3111



ドーム中里き☆ら○ プラネタリウム定期投影

風に揺れるすすきの音を聞きながら、秋の星座を探してみませんか。 ●日時 毎週日曜 午前11時～11時45分 ※22日(日)は休み ●会場 ドーム中里き☆ら○（ユーマール2階） ●入場料 大人200円、中学生以下100円 ●ミュージックプラネタリウム 10月14日(土)午後7時～ ●問合せ 中里公民館 ☎763-2493

第7回笹山じょうもん市

●日時 10月1日(日)午前9時～午後3時 ●会場 笹山遺跡特設会場 ●参加費 無料 ●内容 フリーマーケット、中条小学校笹

山縄文太鼓、中条中学校クラスイベント・合唱・吹奏楽、縄文衣食体験など ●問合せ 中条公民館 ☎752-2748

男女共同参画推進事業
寸劇とトークできっかけ
づくり「ひらけ」

一人ひとりがいきいきと輝いて生きるために何を変えたらいいのか、身近なことから話し合ってみませんか。 ●日時 10月14日(土)午後1時30分 ●会場 千手中央コミュニティセンター ●参加費 無料 ●内容 ①「2部」寸劇「ひと昔はすべてここから始まった」②「2部」グループトーク「いまどきの男女・これだいの？女の役割」 ※保育ルームあります（10月11日(水)までに要予約） ●申込み・問合せ 総合政策課行革協働係（内線231）

きのこ講習会

大蔵寺高原できのこを探し、あとで名前や食べられるかどうかなどをきのこ博士が鑑定するきのこの勉強会です。食用と鑑定されたきのこは持ち帰りOK。お昼はきのこの料理です。 ●日時 10月8日(日)午前9時～午後2時 ●会場 大蔵寺高原 ●参加費 高校生以上2,500円、

小・中学生1,500円（昼食代・講習会費用・イベント保険料含む） ●定員 先着50人 ●申込み・問合せ 10月5日(木)までに、松之山観光協会 ☎596-3011

きのこ鑑別講習会

●日時 10月11日(水)午前9時30分～午後2時 ※送迎バス 午前8時40分市役所本庁発 ●会場 マウンテンパーク津南 ●参加費 無料 ※きのこ汁無料サービス ●申込み・問合せ 市民生活課生活環境係 ☎763-2513 松代商工会 ☎597-2006 松之山商工会 ☎596-2174

妻有街道歩け歩け大会

かつて関東へつながった、妻有郷から三国峠越えの街道を歩いてみませんか。イモ掘り、ざるそば、山賊汁付き。 ●日時 10月8日(日)午前9時出発（受付8時30分） ※小雨決行 ●コース 市役所前→六箇→栃窪峠（約18km） ※帰りはバス ●参加費 大人1,800円、中学生以下1,000円 ※当日徴収 ●

Re・Beワークセミナー

育児や介護などで職業生活を中断している再就職希望者のためのセミナーです。再就職のための必要な基礎知識などを学びます。

日 時 10月19日(木)午前10時～午後0時30分
20日(金)午前9時30分～午後0時30分

会 場 情報館
受 講 料 無 料
定 員 先着18人
※2日間参加できる人
内 容 パソコン演習など
その他 保育ルームあり
※6か月～就学前の幼児10人まで、事前申込み
申込み・問合せ 産業振興課雇用開発室（内線237）

定員 先着200人 ●申込み 10月1日(日)までに、総合体育館 ☎752-4377 または各公民館 ●問合せ 六箇体育協会事務局・小杉健一 ☎757-0557

横浜F・マリノス ふれあいサッカースクール

初心者大歓迎です。 ●日時 9月30日(土)・10月1日(日)（時間未定） ●会場 クロアチアピッチ ●対象 小・中学生 ●参加費 無料 ●申込み・問合せ 総合体育館 ☎752-4377

シンポジウム 平成18年豪雪を振り返る

●日時 9月30日(土)午後1時30分～5時 ●会場 津南町文化セ

第37回中魚沼郡・十日町市 錦鯉品評会・即売会

●日時 10月21日(土)午前8時30分（一般公開は正午）～午後3時 ●会場 JA十日町本店 ●問合せ 農林課農業振興係（内線248）

2006ワンワン運動会 inベルナティオ

愛犬と参加しませんか。 ●日時 10月15日(日)午前10時～午後2時 ●会場 ベルナティオコスモスまつり特設広場 ●参加費 一匹500円 ●申込み 当日現地 ●問合せ 県動物愛護協会十

134) FAX (757) 3800) Eメール th-fukushi@city.tokamachi.nigata.jp

血液さらさら教室
メタボリック・シンド
ローム予防教室

コレステロールや血圧、糖代謝に注意が必要な65歳〜70歳の人が対象です。●期日 11月開始コース 11月1日(水)・7日(火)・13日(月)●時間 午後1時30分〜3時30分●会場 十日町保健センター●定員 先着30人●申込み・問合せ 健康支援課成人保健係 (内線126)

困りごと相談会
(法律・行政・人権)

困りごとや法律的な諸問題の悩みなど弁護士や専門の相談員が相談に応じます。相談は無料で秘密は守られます。【法律相談】サラ金・保証債務・相続・土地建物など【人権相談】家庭内暴力・名誉・いじめなど【行政相談】行政が行っている仕事への苦情、意見、要望など●日時 10月19日(木)午前10時〜午後3時●会場 中央公民館※法律相談は要予約、ほかは直接会場へ●申込み・問合せ 市民生活課市民係 (内線153)

人権相談会

●日時 10月16日(月)午前10時〜午後3時●会場 中里デイサービスセンター●相談料 無料●申込み・問合せ 中里支所市民生活課市民係 (☎763) 2513

巡回相談

南魚沼児童相談所と知的障害者更生相談所による、発達の遅れ、療育手帳の判定、不登校、性格行動上の問題など児童や18歳以上の知的障害者に関する巡回相談です。●期日と会場 10月24日(火)千手中央コミュニティセンター●相談時間 午前10時〜午後3時●相談員 児童福祉司、心理判定員、子育て支援相談員など●申込み・問合せ 実施日の2週間前までに、福祉課子育て支援係 (内線135)

GUIDE 税

支えます あなたの未来を 税金が 9月の納税・納付

9月は固定資産税第3期、国民健康保険税第6期及び介護保険料第6期の納付月です。期限

むし歯のないよい歯の子

本庁で8月の3歳児健診を受けた子36人			住所	保護者
吉澤	聡	真	(高田町3南)	崇志
宮澤	龍	照	(塚原町)	強
佐藤	藤	雅	(谷内丑2)	亮
村山	真	大	(高田町6)	功一
水落	奈	音	(関根2)	春男
佐藤	奈	美	(妻有町西1.2)	一彦
宮川	優	月	(錦町2)	美由喜
太田	あ	夢	(四日町新田3)	祐介
折田	あ	り	(五軒新田)	秀一
小川	雅	美	(尾崎)	元幸
野上	結	羽	(旭ヶ丘)	貴史
富井	落	哉	(旭ヶ丘)	良成
水落	海	かい	(貝ノ川)	優弥
水金	愛	羽	(二子)	正樹
登坂	小	雪	(水沢1)	賢徳
風間	蓮	太	(岩瀬)	正男
兒玉	か	朗	(みのり団地)	伸一郎
平野	裕	ん	(上野)	幸一
戸田	優	哉	(四郎兼)	治
水落	翠	衣	(塩辛)	裕紀
桑原	結	夢	(美咲町)	裕
鈴木	美	那	(田沢本村)	智興
		鈴	(重池)	香織

買い物で暮らしを変えよう! ごみ半減県民運動

県では10月をマイバッグキャンペーン月間、12月を簡易包装推進月間としています。家庭から出る一般ごみ容積の約6割がレジ袋やトレイなどの包装容器です。一人では小さな行動でも、みんなで取り組みれば大きな成果につながります。できることから始めましょう。●リデュース(発生抑制) 毎日の買い物には、買い物袋やエコバッグを持参、簡易包装を心掛ける●リユース(再利用) 使わないものはバザーやリサイクルショップへ●リサイクル 資源ごみは大切に、生ごみは処理器などで減量・たい肥化●問合せ 市民生活課生活環境係 (内線158)

GUIDE その他

10月の休館日

●中央公民館 毎週月曜日
●千手中央コミュニティセンタ

悪質な訪問販売業者に注意!

高齢者や一人暮らしの家庭へ、男性数名で訪問し、高額な商品の販売を強要するなど、悪質な業者に注意しましょう。購入に関するトラブルを防ぐために、必要のないものは買わない、いらぬものは「いらぬ」とはっきり断るようにしましょう。商品は購入した場合は、契約書・領収書・名刺などを必ずもらうようにしてください。●問合せ 市民生活課生活環境係 (内線158)

10月は里親月間

里親制度をご存じですか。近年、児童虐待などで家庭に恵まれない児童が増えています。児童の健全な成長には、温かい家庭での生活が欠かせません。このため、児童福祉法で家庭養育制度が設けられ、児童の幸せのために里親制度が大切な役割を果たしています。里親には、養育里親、短期里親、親族里親、専門里親の4種類があり、児童の状況に合わせて里親の家庭を提供いただきます。現在南魚沼児童相談所管内では20世帯の登録がありますがまだまだ不足と

国の被災者生活再建支援金の申請・報告期限が迫っています

中越地震における国の被災者生活再建支援金のうち、家賃などに対する支給申請手続が済んでいない世帯は、下記の期限までに申請してください。

【対象世帯】住宅被害が全壊(半壊の住宅の全部解体も含む)または大規模半壊で民間住宅家賃・施設利用料・宿泊料などが発生した世帯

※ただし、世帯の収入制限があります

【支給額】月額家賃などの2万円を超える額(支給総額の上限有り)

【申請期限】

申請書の提出期限	平成18年11月22日
対象となる経費の支出期限	平成18年12月22日
実績報告書の提出期限	平成19年1月22日

申請・問合せ	防災安全課 (内線171・172) または各支所市民生活課
--------	-------------------------------

沖縄戦で亡くなられた皆さんのご遺族へ

沖縄県糸満市の平和記念公園内に、沖縄戦で亡くなられたすべての皆さんの氏名を刻んだ記念碑「平和の礎」があります。まだ刻銘されていない次の人は追加刻銘ができます。●該当者 昭和19年3月22日〜21年9月7日の間、沖縄県区域及び南西

いうのが現状です。里親制度を詳しく知りたい人は、児童相談所におたずねください。●問合せ 南魚沼児童相談所 (☎025) 770-2400

新潟県の最低賃金は 1時間648円

新潟県最低賃金が改正されました。9月30日(土)からの新しい最低賃金(時間額)は648円です。アルバイトや臨時採用などの雇用形態を問わず、県内で働くすべての人が対象となります。●問合せ 十日町労働基準監督署 (☎752) 2079

10月2日(月) 市役所分庁舎オープン!

本町2丁目(北越銀行隣)に改修工事を進めていた「分庁舎」が完成し、10月から業務を開始します。

【10月2日(月)から業務開始】

- 産業振興課・雇用開発室 (市役所本庁舎から移転) (☎757-3111 FAX 752-7655)
- 観光交流課 (クロス10から移転) (☎757-3100 FAX 757-5150)
- 十日町観光協会 (クロス10から移転) (☎757-3345 FAX 757-5150)

【10月中旬から業務開始予定】

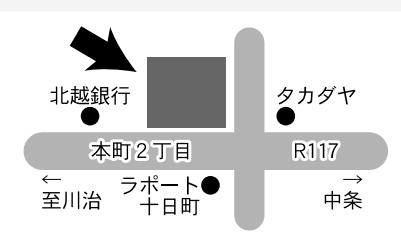
- 社会福祉協議会
- 老人クラブ連合会
- 医師会事務局

※詳細は市報10月10日号でお知らせします

●問合せ=財政課管財係 (内線220)

市役所分庁舎完成記念イベント
「分庁舎がやってきた! ヤア!ヤア!ヤア!」
〜史上最大のビンゴ大会〜

分庁舎の完成に合わせて、10月7日(土)、本町3丁目セントラルパークにおいて、地元6商店街振興組合合同のイベントが開催されます。お楽しみに。



テレビ・ラジオの受信障害に関するお知らせ

10月は「受信環境クリーン月間」です。放送電波の受信障害は、家庭用・工業用電気製品から発生する電気雑音や不法無線

局などによって良好な放送の受信ができなくなるものです。テレビがきれいに映らない、ラジオに雑音が入るといった電波に関する相談を受け付けます。●問合せ 総務省信越総合通信局 (☎026) 234-9963

●休日救急医			
期 日	医療機関名	住 所	電話番号
1 日(日)	石川医院	津南町	766-2061
	本町クリニック	本町3	750-1160
8 日(日)	小林内科医院	中町	752-7155
9 日(祝)	山口医院	袋町中	752-2174
15日(日)	せき整形外科	四日町2	750-1155
22日(日)	上村病院	田中	763-2111
	池田医院	本町西1	752-2581
29日(日)	川西診療所	高原田	768-2034

●乳幼児健診

◎会 場…十日町保健センター（十日町市役所となり）
◎持ち物…母子健康手帳、問診票、
フッ素塗布希望確認票（1歳6か月児のみ）
視聴覚アンケート（3歳6か月児のみ）
着替えやおむつなど必要なもの

◎対象の期日に受診できなかったときは、住んでいる
本庁または各支所へ連絡してください。
◎3歳6か月児健診前に検査セットを送りますので、
届かない人は本庁へ連絡してください。

事 業 名	期 日	受付時間	対 象 児
4 か月児 健 診	25日(水)	午後1時 ～1時30分	18年 6 月 生まれの 乳 児
10か月児 健 診	18日(水)	午後1時 ～2時30分	17年12月 生まれの 乳 児
1歳6か月児 健 診	11日(水)	午後1時 ～1時30分	17年 4 月 生まれの 幼 児
2歳6か月児 身体測定	18日(水)	午前9時 ～ 9 時30分	16年 4 月 生まれの 幼 児
3歳6か月児 健 診	19日(木)	午後1時 ～1時30分	15年 4 月 生まれの 幼 児

予防接種・健康相談・休日救急医・乳幼児健診の問合せ				
十日町本庁(代表) ☎757-3111	川西支所(健康福祉課直通) ☎768-4957	中里支所(健康福祉課直通) ☎763-3121	松代支所(健康福祉課直通) ☎597-2221	松之山支所(健康福祉課直通) ☎596-2169

▼毎週、あるいは毎日のように大地の芸術祭のイベントや作品案内、施設運営にボランティアとして積極的にかかわっている人たちに、「大変ですね」と声をかけると、返ってくる言葉は皆さん同じでした。「全然苦になりません。楽しいだけです」。それも全員笑顔で大きな声で。心底楽しそうです。

▼「雪以外の地域の魅力を発信しよう」「だんごを売って外国に行こう」「無農薬有機の認証果樹園を作ろう」…。目標もはっきりしています。「本場に一所懸命になると体の底から力がわいてくる」ということを絵に描いたような人たちがあふれる50日間でした。

▼大地の芸術祭の意義は、こういう人たちがどれだけの地域に生まれるか、ではないでしょうか。

（わ）

●予防が大切、インフルエンザ

I 抵抗力を高める

栄養と睡眠をしっかりと取りましょう。特にビタミンを多く含む野菜と、たんぱく質を多く含む魚や豆などをたっぷり取りましょう。

II 感染経路を断つ

うがいや手洗いでウィルスを体の中に入れないようにしましょう。ウィルスは乾燥した所を好みます。マスクや加湿器を使用してのどの乾燥を防ぎましょう。

III 予防接種

予防接種で発症・重症化を防ぐことができます。接種してから効果が出るまで約2週間かかります。希望者は、早めにかかりつけの医療機関に相談してください。

●離乳食教室

対象児と内容	開 催 日
2か月～4か月児 離乳食準備期～前期	5日(木)

会 場 十日町保健センター
受付時間 午前9時45分～10時
直接会場にお越しください
持 ち 物 母子健康手帳

対象児と内容	開 催 日
2か月～4か月児 離乳食準備～前期	20日(金)

会 場 千手中央コミュニティセンター
受付時間 午前9時45分～10時
直接会場にお越しください
対象地域 川西・松代・松之山
持 ち 物 母子健康手帳

予防接種・健康相談・休日救急医・乳幼児健診の問合せ				
十日町本庁(代表) ☎757-3111	川西支所(健康福祉課直通) ☎768-4957	中里支所(健康福祉課直通) ☎763-3121	松代支所(健康福祉課直通) ☎597-2221	松之山支所(健康福祉課直通) ☎596-2169

▼今年度で100歳を迎える方を取材しました。お話をうかがった3人の皆さんは100歳とは思えぬほどしっかりされています。共通して言えるのは、いろんな意味で皆さん稼ぎ手であること。針仕事、草取り、読書etc：五感に刺激を与えることが長生きをする秘訣のようです。1世紀を生きた3人の皆さんの笑顔には100年の歴史が刻まれています。

▼今号は芸術祭の集大成特集号です。地域の人たちや、市・県内外のこへび隊・学生など、紙面で紹介した以外にも、多くの人たちとのかわりがあったの芸術祭でした。非日常的なこの50日間は、芸術祭を支えた一人ひとりにとって、生涯忘れることのない1ページになったことでしょう。

お疲れさまでした！

（優）

お疲れさまでした！

●ちびっこひろば

なかよしランド

親子のふれあいの場を提供します。

●日 時 3日(火)・10日(火)・17日(火)（遠足）・31日(火)
午前10時～11時
※24日(火)は市展のため休み

●対 象 3歳未満児とその保護者

●会 場 市民体育館

●申込み・問合せ 中央公民館 ☎757-5011

おはなしたまてばこ

読み聞かせ、手遊びなどを行います。

●日 時 12日(木) 午前10時～11時

●対 象 乳幼児とその保護者

●会 場 情報館

●問合せ 情報館 ☎750-5100

どんぐりおはなしのへや

読み聞かせ、パネルシアターなどを行います。

●日 時 21日(土) 午後3時～3時40分

●会 場 情報館

●問合せ 情報館 ☎750-5100



●健康相談		保健師による相談
期 日	会 場	受付時間
2日(月)・16日(月)	十日町保健センター	午前9時30分～11時30分
10日(火)	新座コミュニティセンター	午前9時30分～11時30分
	大井田コミュニティセンター	午後1時30分～3時30分
	川治公民館	午前9時30分～11時30分
12日(木)	吉田就業改善センター	午前9時30分～11時30分
	山谷集会所	午後1時30分～3時30分
20日(金)	羽根川荘	午前9時30分～11時30分
	水沢公民館	午前9時30分～11時30分
	平成園	午後1時30分～3時30分
	千手中央コミュニティセンター	午前9時～午後4時30分
26日(木)	松代保育園	午前9時～11時
27日(金)	中条公民館	午前9時30分～11時30分
	北原集落センター	午後1時30分～3時30分
	下条公民館	午前9時30分～11時30分
23日(月)	上新田自治会館	午後1時30分～3時30分
	松之山支所	午前8時30分～午後5時
24日(火)	中里総合センター	午前9時～11時
※健康手帳のある人はご持参ください。		

●心の健康相談

期 日	時 間	会 場	医 師
10日(火)	午後2時～4時	十日町 保健センター	本田医師 （中条第二）

●申込み・問合せ
健康支援課成人保健係（内線126）または、
十日町地域振興局健康福祉部地域保健課
☎757-2400

●全血献血

●日時・会場・受付時間

1 日(日) シルクモール 午前9時30分～正午
ケースデンキ十日町店
午後1時30分～3時30分

4 日(水) ㈱大和伸管所橋工場
午前9時30分～11時30分
千手中央コミュニティセンター
午後1時30分～3時30分

27日(金) 中里総合センター
午前9時30分～11時30分
午後1時～3時30分

●問合せ 健康支援課地域医療係（内線128）

●高齢者職業相談

毎週月～金曜日 午前9時～午後5時 ※9日(月)は休み
会場：高齢者職業相談室（サンクロス十日町内）
おおむね45歳以上が対象です

●定例行政相談

毎月第2金曜日 午前10時～午後3時
会場：市民相談室・行政相談室

●行政相談

【川西地区】24日(火)午後1時30分～4時
会場：はあとふる川西

【松代地区】6日(金)午後1時30分～4時
会場：しぶみの家

●法律相談 電話で市民生活課市民係へ要予約
毎週木曜日 午後1時30分～4時
会場：本庁市民相談室・行政相談室
※19日(木)は午前10時30分～午後2時30分中央公民館です

●定例社会保険・年金相談

毎月第2・第4木曜日
午前10時～正午、午後1時～3時
会場：クロス10

●心配ごと相談 問合せ 社会福祉協議会☎750-5010
会場：社会福祉協議会（本所・支所）
時間：午後1時30分～4時
▽十日町本所 毎週木曜日
▽松代支所 6日(金) ▽松之山支所 10日(火)
▽中里支所 20日(金) ▽川西支所 24日(火)



となかまち イチオシ おもしろ スポーツマップ

勝ち負けよりも楽しむことがスポーツには大切。十日町市には、ニュースポーツやちょっと変わったおもしろ競技がたくさん。スポーツの枠を超えて地域のイベントにもなっているものもあります。参加して楽しい、見て楽しいそれぞれの地域のおもしろスポーツを紹介します。

パークゴルフ

コミュニティスポーツとして話題を呼んでいる「パークゴルフ」がこの夏、ナカゴグリーンパークに登場しました。自然の中で笑顔を交わしながら楽しくプレーすることが出来ます。
▼場所…ナカゴグリーンパーク
▼問合せ…サンパレスナカゴ ☎768-4419



ツマリアンボール

平成2年の第41回十日町雪まつりで十日町市が発祥の新スポーツとして誕生。雪上の円形コート内で3チームが同時に対戦するユニークなバレーボールです。

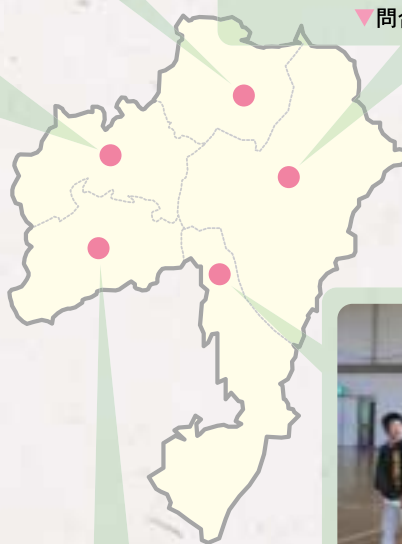
▼開催：十日町雪まつり（2月）
▼問合せ：観光交流課 ☎757-3100



□・マン24 in まつだい 24時間耐久リレーマラソン

1チーム10人以内のメンバーで、リレー形式でタスキをつなぎながら1周2.13kmのコースを24時間で何周回れるかを競う耐久レースです。

▼日時：9月30日(土) 正午スタート
▼会場：松代総合体育館グラウンド
▼問合せ：松代総合体育館 ☎597-3752



KIN-BALL(キンボール)

直径122cm、約1kgの大きなボールを使い、1チーム4人、3チームでプレーします。「ヒット」のときは、相手チームの色を大きな声でコール。相手は「レシーブ」し、3人でボールを支え、もう1人が「ヒット」。それを繰り返して得点を競います。

▼開催：地域子ども教室 など
▼問合せ：教育委員会中里事務所 ☎763-2943



まつのやま湯鳥駅伝大会
4ブロック編成の駅伝大会には、50人参加できる「ゆとり部」があります。選手は、自分の体力に合わせゆとりを持って走ります。全長14.5kmを保育園児から大人まで一本のタスキをつなぎます。今年の号砲は、10月9日「体育の日」。
▼場所…松之山自然休養村センター前出発
▼問合せ…松之山公民館 ☎596-2265

携帯サイト

